

「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、知事の政策スタッフとして、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成 28 年 4 月

福井県知事 西川 一 誠

観光営業部長 佐々木 康 男

28 年度目標（30 年度目標）

28 年度の施策

1 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略

◇「幸福日本一・福井」の新ブランド戦略【部局連携】

○「福井の知名度・好感度」全国上位へ

- ・幸福度日本一「FUKUI HAPPINESS」や恐竜王国を強く打ち出しながら、県民や企業と共動し、福井ならではの自然、歴史・文化、食などの魅力をインターネットや雑誌、ポスター等で国内外に広く発信します。

（平成 27 年度 知名度・好感度 29 位
「地域ブランド調査 2015 魅力度順位」）

25 位（20 位台前半）

○福井が舞台の「大河ドラマ」

- ・平成 30 年における福井が舞台の大河ドラマの実現に向け、大河ドラマ誘致推進協議会を中心に、NHK へ強力に働きかけます。
- ・由利公正の功績等を紹介する映像の制作やシンポジウム等の開催のほか、市町や団体・企業等とともに機運醸成、知名度向上のための活動を年度前半に集中して実施します。

○福井のアニバーサリー

- ・明治維新150年となる平成30年に向け、幕末明治期の本県偉人の功績の検証や発信を行い、県民のふるさと福井に対する自信と誇りを醸成します。
- ・県民が幅広く参加するアニバーサリー事業（「ふくい幕末維新博（仮称）」の開催等）の平成30年の実施に向けて準備を進めます。

◇「恐竜溪谷100万人構想」の実現【部局連携】

○楽しみ学べる恐竜博物館

- ・国内初となる草食恐竜「ヘスペロサウルス」や大型のヨロイ竜「エドモントニア」などの実物全身骨格の組立作業の公開も含め、「本物の魅力」による展示のスケールアップを図ります。
（平成27年度 恐竜博物館入館者数 93万1千人）

100万人（110万人）

- ・第2恐竜博物館について、有識者による委員会を設置し、施設の機能や構成、整備・運営のあり方等の検討を進め、年度末までに基本構想・計画を策定します。並行して、民間事業者が参画可能な事業内容や整備運営スキームを調査します。

○恐竜学研究の世界拠点へ

- ・第4次恐竜化石発掘調査や国内外の共同発掘調査・研究を継続して進めます。また、6月に日本古生物学会を開催し、本県の恐竜研究が世界トップレベルであることをアピールし、アジアにおける恐竜研究の拠点としての地位を確立します。

○ジュラチックによる恐竜ビジネスの拡大

- ・企業等に対する営業活動の強化や新たな企業とのコラボにより、公式恐竜ブランドキャラクター「ジュラチック」を活用した商品の開発・販売を拡大します。
- ・「ジュラチック」をPRする学生等によるサークルの組織化やイベントでの成果発表等を促進し、県民へ「ジュラチック」を普及します。

◇観光フロンティア・福井【部局連携】

○100万人観光地の創出

- ・永平寺門前や今庄宿、小浜西組周辺など県内5地区で継続して実施している「観光まちなみ魅力アップ事業」を着実に推進します。
- ・さらなる観光誘客や観光消費額の拡大を図るため、核となる観光地等の魅力向上や二次交通の充実などを盛り込んだ「周遊・滞在型観光推進エリア」を創出する計画を県内6エリアで策定します。
- ・京都府、滋賀県とともに「広域観光推進協議会（仮称）」を設立するほか、岐阜県や石川県等との連携強化により、広域周遊観光を推進し、国内外からの誘客拡大につなげます。

（平成27年 100万人観光地 4か所）

1か所増 累計5か所（累計6か所）

○観光客1300万人の実現

- ・北陸新幹線金沢開業による観光客の増加傾向を維持・拡大するため、民間事業者ともコラボし、引き続き上野駅など首都圏や新幹線沿線において、集中プロモーションや魅力発信の事業を効果的に実施します。
- ・北陸への誘客拡大を進めるため、北陸三県とJRが共同した誘客キャンペーンを10～12月に実施します。それに先立ち、大阪駅での北陸フェア（仮称）の開催やツーリズムEXPOへの出展など、誘客PRを実施します。
- ・若狭さとうみハイウェイや京都縦貫自動車道を活用して誘客拡大を図るため、昨年に引き続き、京都府、滋賀県等と連携した高速道路定額乗り放題プランや、嶺南6市町とともに展開する「海湖と歴史の若狭路」キャンペーンを実施します。
- ・若狭路が有する貴重な資源や特性を活かした周遊観光を推進するため、日本遺産「御食国若狭と鯖街道」を活用した旅行商品の造成を促進します。
- ・その土地ならではの歴史・文化、食、里山里海湖、産業、体験など特色ある資源を磨き上げ、組み合わせ、新たな発見や感動を生む「福井ならではの」のツーリズムを推進します。
- ・小松空港を利用した誘客拡大を図るため、機内誌での観光地紹介や機内での福井の料理の提供など、航空会社と連携した誘客プロモーションを実施します。
- ・観光施設や文化施設、各種イベント等において、観光客が地域の特産品等を購入できる機会を拡大します。

（平成27年 観光客入込数 1,270万人（見込み）
観光消費額 937億円（見込み）

1,300万人（1,350万人）
1,000億円（1,150億円）

○奥越を自然環境の体験学習エリアに

- ・六呂師高原を通年型の体験観光エリアにするため、大野市や勝山市、民間と共働して、スキーパークの整備や奥越高原牧場など既存施設の機能強化を行うほか、ふるさと学びの森などを使った体験活動の充実を図り、奥越の観光拠点として再整備します。

（平成27年 六呂師高原入込客数 161,000人（見込み）

180,000人（220,000人）

○海外誘客の強化

- ・アジアからの団体客に加え、欧州等からの個人客を呼び込むため、“ZEN”を中核に据えた新たな外国人誘客ブランドを活用し、海外の旅行会社への営業や海外旅行博への出展等を行います。
- ・航空会社と連携し、外国人観光客向けに「福井ならではの」の伝統体験や交流メニューを作成し、インターネット等により海外に向けて発信します。
- ・食・食文化を活かした誘客を拡大するため、精進料理や和菓子など「伝統の福井和食」の文化を学び、調理体験等ができる店舗づくりを支援します。
- ・中部広域観光推進協議会が進める「昇龍道」や、関西国際観光推進本部が進める「美の伝説」プロジェクト等に参画し、近隣府県と連携して誘客拡大を図ります。

(平成 27 年 外国人宿泊者数 59,000 人)

80,000 人 (100,000 人)

- ・通訳案内士による協議会設立について支援するとともに、簡単な解説や案内ができる通訳ボランティアを養成します。
- ・外国人受入環境の整備のため、消費税免税店の開設支援や、観光事業者等を対象にした外国人接客のための研修会を実施します。

(平成 27 年度 消費税免税店数 29 店)

21 店増 累計 50 店 (累計 50 店)

○観光人材の育成

- ・福井県観光アカデミーを引き続き開講し、本県観光におけるイノベーションを創出するため、現場感覚と理念の両方を持って、観光産業やまちづくりをマネジメントできる人材を育成します。
- ・福井県認定観光ガイド養成講習会を開設し、多彩な観光コースの提案が行える人材を育成し、道の駅や観光案内所などでの活動を促進します。

2 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ

◇「ふくい食ブランド」を地消・外商【部局連携】

○海外に売り込む「福井の食」

- ・ミラノ国際博覧会の成果を活かし、食や伝統工芸品の事業者や行政等が一体となって「FOODEX JAPAN」など食の商談会・展示会等に出展し、国内外のバイヤーへの販促や福井の食・食文化のPRを強化します。
- ・観光、商工、農林水産業の関係者が一体となり、「ふくい食輸出サポートセンター」による台湾での物産展を開催することなどによって、新たに輸出に取り組む県内企業を増やし、食品輸出額を拡大します。
(平成27年度 県内企業 21事業者)

3事業者増 累計24事業者(累計30事業者)

3 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に

◇福井の文化をもっと身近に

○子どもの文化・芸術活動

- ・小学5年生全員を県立音楽堂での本格的なオーケストラコンサートに招くほか、福井ゆかりのプロの演奏家を派遣する「出張音楽堂」を、中学校に加え、新たに小学校の連合音楽会等でも開催し、本物の芸術文化に触れる機会を提供します。
- ・学校鑑賞会として県文化施設の企画展に児童生徒を招くほか、美術、書道、演劇等の分野において、中高生が一流の芸術家から直接指導を受ける機会を提供します。

(平成27年度 一流の芸術・文化を体験する子どもの数 77,000人)

78,000人(80,000人)

○若者文化の活動を応援

- ・ストリートでのミュージックやダンスといったパフォーマンス、アニメなどの若者文化について、市町と共働し、実態把握に努めるとともに、活動や発表の場の確保等を通して、若者の活動を応援します。

○文化施設の活性化

- ・研究者など外部協力者からの情報を収集しながら、県外に所蔵されている福井ゆかりの美術品等の蒐集を進めるとともに、幕末から明治期等における古文書、書簡等の文献資料等の充実を図ります。

(美術館)

- ・岩佐又兵衛福井移住400年を記念した「岩佐又兵衛展」や近代フランス美術を華やかに彩った作家の名品を一堂に公開する「ランス美術館展」を開催するなど、県内外からの誘客を進めます。

(平成25年度～27年度の平均 **美術館の入館者数** 235,824人)

240,000人

(若狭歴史博物館)

- ・平城京跡出土の若狭との関係を物語る木簡や放生祭など有形・無形の貴重な文化財とその保護に関わる歴史を紹介する企画展「若狭のたから～知る・護る・繋ぐ～」を開催し、特色ある若狭の歴史・文化を県内外に強力に発信します。

(平成27年度 **若狭歴史博物館の入館者数** 59,286人)

70,000人

(歴史博物館)

- ・本県の婚礼儀礼の歴史などを紹介する「ふくいの婚礼」展、福井城跡の発掘調査の出土資料や絵図をもとに紹介する「城下町・福井の町と人」展を開催し、本県の歴史・文化遺産の価値や魅力を発信し、県内外からの誘客を進めます。

(平成25年度～27年度の平均 **歴史博物館の入館者数** 91,671人)

100,000人

4 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

◇福井が誇る歴史遺産の発信

○日本最大の戦国城下町「一乗谷ミュージアム」

- ・平成32年度夏の開館に向けて、一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)「展示・ガイダンス棟」の基本設計(建築・展示)を作成します。
- ・日本トップレベルの中世都市遺跡研究の拠点化を進めるため、考古、文献、建築史、庭園史などの分野を超えた学際的な研究の推進に向けた具体的な検討を進めます。
- ・特別名勝庭園の再生・観賞化に向けた調査や復原町並での戦国城下町の人々の生活再現などを実施し、スケール感のある本物の歴史空間としての整備を進めます。
- ・県と福井市との間で、業務や役割を十分に協議し、推進体制の強化を図り、ミュージアム化のスピードアップを図ります。

(平成25年度～27年度の平均 一乗谷朝倉氏遺跡資料館の入館者数
55,635人)

60,000人

○福井の遺産を日本・世界遺産へ

- ・一乗谷朝倉氏遺跡、白山平泉寺、永平寺など中世の歴史遺産をはじめ、本県に集積する魅力ある遺産群の「日本遺産」認定等を推進します。
- ・ユネスコ無形文化遺産である「和紙」への早期追加登録に向け、越前和紙の技術保持団体について、教育委員会と連携し、国の重要無形文化財への指定を推進します。

○豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

- ・ふるさとの伝統的民家・まちなみ保存の拡大を図るため、「福井ふるさと百景活動団体」と「伝統的民家群保存活用推進地区」の認定・指定を継続して進めます。

(平成 27 年度 (累計) 福井ふるさと百景活動団体・

伝統的民家群保存活用推進地区 66 団体)

10 団体増 累計 76 団体 (累計 85 団体)

- ・福井らしい特徴を持ち、歴史や風土、生活に根付いたストーリー性のある市町を超えた景観を「福井ふるさと広域景観エリア」として設定し、エリアごとに目指すべき目標と景観形成方針を設定した景観ガイドラインを策定します。
- ・特に、越前海岸の水仙畑等においては、重要文化的景観の選定に向けた事前調査を実施し、広域的な景観づくりを推進します。